

◆『令和3年度の指導方針について』

副校長・教育部長 有賀 浩

建学の精神、校訓を根本とし、「明るく笑顔で元気のよい挨拶を基調とした全人教育」、そして「勉強と仕事を通して自己実現を図る」こと。グローバル社会に貢献するため、「日本人としての自信と誇りを持ち、確固たるアイデンティティを確立する」こと。これら本学における職業実践専門教育の土台となる教育理念（創立36年目を迎え、尚不変である）を確と心に据え、夫々の学校・学科・研究・専攻・コースにおいて、社会人基礎力の上に目標とする職業に必要なスキル・資格を積極的に修得、各自が目指す職場、職種への就業を果たす。これこそが、専門的職業教育のための高等教育機関としての本学の役割だ。生涯学習機関として卒業生や社会人（在職者、離職者）等を対象としたリカレント教育、小・中・高生ための職業・キャリア意識向上にも対応する。

学科ごとに異なるが、修業年限という限られた時間の中で「人財」となるために、まず一日も早く職業観を養い、就職という目標を明確化しよう。そのためには本学が最も力点を置く『産学連携教育プログラム』〈産業界・福祉・医療・幼児教育等、各分野との密接な連携による実践的・体験的な職業教育〉により、企業人・現場スタッフ、卒業生から直接指導を受け、関わり合い、評価を頂くことで、キャリアイメージを明確化する。更に各自の就職目標達成に向けた学びに対するモチベーションを高める。そしてこの貴重な経験を通して見つけた課題を持ち帰り、アクティブラーニングを活用した学内での学びで解決、ステップアップを目指す（PDCA サイクル）。

「創意進取の研鑽」を重ね、試行錯誤を通じ、「クリエイティブな精神」を大いに培う。そして将来プロフェッショナルとなった後も、それぞれの就職先で「現代社会の変化に対応」して積極的に動き、自ら課題を見つけ解決する力量、高い付加価値を創造する力量を伸ばすこと。校訓「技術は力なり 我は我が道を行く How to 人間ではなく Why 人間の養成」を具現化するために必要なこれらの「力」のベースを、修学期間中に一つでも多く身に付けよう。

昨年度スタートした「CAN スカラシップ制度」に基づく学生リーダーたちが中心となり、学生相互の切磋琢磨により全ての学生が社会性・専門性を高めていく。「ICT（情報通信技術）・エンターテインメント」×「福祉・医療・子ども・教育」のコラボレイトによる共同研究開発に加え、永年継続して地域から高く評価されている地域活動・ボランティア活動も一層充実させる。

両専門学校共に文部科学大臣から認定されている「職業実践専門課程」「キャリア形成促進プログラム」としての責務も果たさなくてはならな

い。各界のプロフェッショナルや専門分野で豊富な経験を積んだ卒業生を中心に構成する学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会により、我々教員も多くのチャンネルを駆使して研鑽を重ね、斯界のニーズを的確に反映したカリキュラムの構築と教育を実践する。

また、専門学校での高度職業教育には「中核的人材の育成」についても大きな期待が寄せられている。今年度も文部科学省委託事業（全国の専門学校・企業・業界団体・学識経験者とのコラボレーションによるeラーニング等の教育システム構築・カリキュラム構築、教材研究開発並びにコンテスト等のイベント開催等）とその普及に本学も参画する。

コロナ禍の世の中ではあるが、教職員・学生が一丸となって万全の感染防止対策を施しながら学事を進めていく。超少子高齢化、人口減少、そして第4次産業革命による Society 5.0 の実現、サイバーフィジカルシステム（CPS）の急速な普及という環境の下、「時代を先読みし、キャリアイメージを常に持ちながら付加価値を高めていけるプロフェッショナル」になるための着実な教育を実践し、その成果として優秀な人材を世の中に輩出する一年としたい。

*「職業実践専門課程」

専修学校の専門課程であって、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行うものを、「職業実践専門課程」として文部科学大臣が認定して奨励することにより、専修学校の専門課程における職業教育の水準の維持向上を図ることを目的とするもの。平成26年度より新設された。本学園が設置する両専門学校とも認定を受けている。

*「キャリア形成促進プログラム」

専修学校の専門課程又は特別の課程であって、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として、職業に係る実務に関する知識、技術及び技能について体系的な教育を行うものを文部科学大臣が認定して奨励することにより、社会人の職業に必要な能力の向上によるキャリア形成を図る機会の拡大に資することを目的とするもの。平成30年度より新設された。

◆専門学校静岡電子情報カレッジ

電子情報系学科長 有賀 浩

専門学校静岡電子情報カレッジでは、産学連携教育プログラムを基軸として、多様化・高度化するニーズに即応するための『専門的スキル』とコミュニケーション能力を土台とした『社会人基礎力』をダブルで養成。令和2年度スタートしたCAN スカラシップ制度による学生リーダーを中心に、自ら考え、前進する力を身に付け、混沌とする世の中で活躍できる人材を育成します。

◆ITゲーム&ロボットシステム学科

（ゲームシステム研究、ロボットシステム研究、IT スペシャリスト研究）
 コロナ禍のために、多くの業務においてテレワーク、リモートワーク、ワーケーションが普及。オンライン会議、オンライン研修も日常的になり、ICTの活用が一層加速しています。加えて、産業界全体がデジタル・トランスフォーメーション（DX）にシフト。ICT分野の人材が一段と求められるようになりました。

本学が開校以来培ってきた「組込み技術」「システム設計開発」の教育ノウハウをIT、ゲーム、ロボット分野に拡大。「ゲーム」「ロボット」自体を高度なコンピュータシステムの一つとして捉え、豊富な実習を通して「ものづくりの醍醐味」を体得します。リアルタイム性、高度な画像処理、複雑な多重処理に加えてAIの活用と、求められる技術はたいへん高度なものです。これらを習得するためには、産業界のサポートによる「産学連携教育プログラム」が欠かせません。短期・小規模なものから実践的に開発を繰り返すことで、徐々にレベルアップを図ります。経験値も上がり、振り返った時に自らの成長ぶりに感激することでしょう。

こうして身につけられたスキルに対する学外からの評価を得るため、全国レベルのコンテストに挑戦。そこで企画・スケジュール管理をベースに100%の完成度を確実に達成する人間力・スキルを高めます。

そして自らが目標とする業界・職種を明確にし、「就職」という夢を実現しましょう。

◆音響&映像メディアクリエイト学科

（音響エンタメ研究、映像メディア研究）
 コロナ禍で大きな打撃を受けたエンターテインメント分野ですが、形を変えながらも新しいエンターテインメントが矢継ぎ早に生み出され、エンターテインメントが人々の心を救い、活気づけ、支えるシーンが数多くみられるようになりました。

このような状況に対応するため、IT基本技術・社会人基礎力を土台として感性を磨いた上で、映像、アニメーション、音響、音楽、エンターテ

イメント分野の実践に即した授業内容で最先端の技術や知識を修得します。「産学連携教育プログラム」では、関連企業や団体とタッグを組んで、テレビCM制作、学生グループによるライブイベント企画・運営、ラジオ番組・CM制作、デジタルサイネージ用コンテンツ制作、Webデザイン等、様々なクリエイティブな活動を実践。創り出したコンテンツをマスメディア、インターネットを通じて発信します。クライアントとのミーティングも体験し、コミュニケーションを含め、大いに経験値を高めて、即戦力となる人材を目指します。これらの活動を通じ、世間からも、プロからも評価を頂き、その結果を省みてレベルアップを図る。まさにPDCAサイクルですが、これらを在学中に一つでも多く経験しましょう。

この分野で特に求められるのはセンス。その養成にはコツがあります。日本では古来より武道や芸術の世界で師弟関係を「守破離」という言葉で表してきました。始めは先人達の作品に触れ、徹底的に模倣することから始めます。彼らがその中にどんな思いでどんな技術を注ぎ込んできたか、やがて理解できるでしょう。そこから独自の感性を積み上げていくのです。若きクリエイターの力を結集し、明日の日本をデザインしよう！！

静岡福祉医療専門学校

総合福祉学科

「生かされている私」を見詰める - 新入生に贈る言葉 -

学科長 磯野 博

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

まずは皆さんとの出会いに感謝致します。

今年度は、高校を卒業したばかりの方に加え、留学生や大学からの進路変更の方も多く、多彩な学生を迎えることができ嬉しく思います。これも時代を反映しているといえるでしょう。

まだまだ終息の兆が見えないコロナ禍、皆さんも色々な生き辛さを感じながら本学に入学されたと思います。昨年度は、正に苦難の一年でした。しかし、本学は、それを成長し、変化していくために与えられたチャンスと捉え、「試行錯誤の中からクリエイティブな精神を培い」ほぼすべての授業を対面で行い、実習や学校行事を断行してきました。

勿論、これまでと全く同じ形ではできませんでしたが、学生と共に暗中模索するなか、改めて身につまされたことがあります。私達が困難に直面する最中、手を差し伸べ、チャンスを与えて下さったのは地域の方々であり、関係機関・団体であり、そして卒業生であったことです。そこで思い出した言葉があります。それは、本学の創設者が私達に残してくれた

「I was born. Keep alive. 人は、生まれ、生かされている」という言葉でした。

本学は、「地域に開かれ、地域を拓く専門学校」としてこれまで多くの成果を挙げてきました。コロナ禍においても、今だから求められ、今だからできる活動」を学生と共に探求してきました。当然、これは教職員や学

生だけでできることではありません。人は困難に直面したとき、自分たちを支えてくれている方々の存在を痛感し、「生かされている私」を見詰めることになるのです。

そのような伝統と実績を持つ本学の仲間になった皆さんを歓迎します。一緒に新たな歴史を創っていきましょう！

介護福祉学科

学科長 三嶋 秀子

ご入学おめでとうございます。介護福祉学科は『共感性豊かで、専門的知識と技術に精通した介護福祉士の養成』を目指します。

確かな理論的基盤に立脚したコミュニケーション技術・基本的人権・専門的知識と技術の習得を行い、利用者様を尊重し、利用者様が安全で快適な生活を過ごせることができるよう、相手の気持ちや立場が理解できる介護福祉士を目指しましょう。そして、人間としても成長し、高い倫理観を持ち合わせた介護のプロを目指しましょう。

さらに、ビジネスマナー、ICT活用技法やカウンセリングマインドも身に付け、福祉現場で幅広く活躍できる人材を養成します。理想は高いですが、自主トレーニングや指導を濃密にし、友人や先輩・後輩との連携を図りながら、自己実現を図るため、少しずつ前進したいと考えています。一緒にがんばりましょう。

子ども心理学科

学科長 後藤 明子

新入生の皆さん 入学おめでとうございます。

学生と教職員が『希望先へ就職する』を目標に奮闘し、昨年もめでたく就職率100%を達成することができました。

今年度入学する1年生は13期生となります。私たちの最終目標は今年度もそれから皆さんが卒業するときも変わらず、『全員が希望先へ就職すること』です。皆さんの夢を現実するためには、早期に目標を定めゴールに向かい進むことです。

「こどもたちの‘こころ’と‘からだ’の健やかな成長を見守り、あたたかいふれあいの『心』を大切にする保育士・幼稚園教諭を育成する」という学生指導方針を根底に置き、さらに「専門職としての知識・技術の修得および子どもたちに何ができるのかを探求する学生」を本学科の目標とする学生像として教育してまいります。保育者・幼児教育者となるために、まず、①挨拶②相手を思いやる気持ち③礼儀④規則正しい生活⑤行動力 を心がけてください。

また、物事に優先順位をつけてください。今やりたいこと、やらなければならないこと、どちらを優先するか立ち止まって考える理性も必要です。仕事はチームワークです。目的に向かって進む中で、今優先すべきこと、自らの行動はどうあるべきかを考えながら行動できる力を身に付けていきましょう。

3年間の成長を楽しみにしています！！

視能訓練士学科

学科長 山村 慈

ご入学おめでとうございます。

視能訓練士学科は「考える視能訓練士」を目指します。主な仕事は、眼科での検査や訓練ですが、これらは患者さんの協力なくては成り立ちません。そのため、基本的な医療知識・器機を取り扱う技術・コミュニケーション能力が必要です。疾患予測をし、数種類から数十種類の検査をこなし、結果に矛盾がないかどうかを考察する能力、患者さん一人一人に合わせた気配り、先進医療のための学びなど色々な事が求められます。また国家試験では、物事の本質を捉えた「応用力」の占める割合が増加傾向にあります。4年前に開科した1年制も今年度が最後となりました。来年度からは3年制がスタートします。1年で学ぶことは容易ではありません。強い意思と覚悟を持ち、余多の壁を乗り越えることができるような学生生活を送れるようにしていきましょう。



4月の行事予定

- 1日(木) キッズハウスひかり「入園進級お祝いの会」
- 5日(月) 新入生オリエンテーション 9:00～
在校生オリエンテーション 13:00～
健康診断 13:00～
- 6日(火) 在校生前期開校
ORT前期開校
- 10日(土) 始業式、入学式、後援会入会式
- 12日(月) 新入生前期開校 挨拶運動(～16日(金))
- 19日(月) 2CP保育実習1(保育所)事前研修(～21日(水))
- 22日(木) 学生会選挙(昼休み)～(23日(金))
- 24日(土) オープンキャンパス 13:15～
- 29日(木) 昭和の日
- 30日(金) 春季スポーツ大会

